



第三章 ウィーン

母がこの世を去る少し前に、美術学校の入学試験を受けるために、私はウィーンを訪れた。試験にはわたくし合格できるといふ確信の下に、私は深山の繪を携へてゐた。これは私の二度目のウィーン訪問であつた。と云ふのは嘗て十五歳のとき、私はこの地で二週間の休暇を過ごしたことがあつた。そして今回も再び、壯大な國會議事堂やアラビアン・ナイトのお伽話のやうな環状道路を目を見張つた誇りと自信に満ちて、私は入學試験の結果を待ち受けたが、合格が發表されると、青天の霹靂のやうなショックを受けた。試験官は、私の繪は畫家としての能力の不足を示してゐるが、しかし建築學校には向くたうと云つた。

一生のうち初めて、私は自分自身に不満を感じたが、しかし數日後、私は建築家にならうと決心した。母の死後、私は三度目に再びウィーンに來たが、この時は數年のあひだ滞在した。私は相變らず悠揚迫らざる態度で自信に満ちてゐた。目標は眼の前に燃えてゐた。そしていかなる障礙も建築家にならうとする私を阻止することはできないやうに思はれた。

私は今や困苦に耐へ得るものとなつた。嘗て私が幾層な運命と考へてゐたものを現在の私は天の正しい理と見做してゐる。貧苦を抵抗しようとする意志が次第に増大し、その意志が次第に勝利を占めた。それは要するに、私が、困苦に耐へることを學び、そして今や困苦に耐へるものとなつたからに外ならない。私は貧苦の女神が私の新しい母となつたことを喜んでゐる。彼女は私を貧しい人々の世界へ戦ふやうになつた人々を私に紹介した。

ウィーンは今もなほ私の心に悲しい思い出を呼び起す。私にとつてこの都市は、悲痛と困苦の間に對する苦闘の點に於いて、運命が貧苦に苛なまれた悲惨な下層社會に見て極めて不健全であつた。食料が乏しく、同居してゐた。無数の失業者はリングストラッセ(環状道路)の宮殿の前を彷徨し、不潔な運河や下水の橋の下には家のない人々が住んでゐた。ドイツの都市のうちで社會状態を研究するに、勿論その研究は上から行はれるものであつてはならないが、このウィーンは、どの機会を與へてゐるものか、他になつた。社會運動を動かす人々、悪くは、感傷に感傷を期待してゐるが、しかしかかる人々は好意を分配しないで、むしろ權利を回復すべきである。

アドルフ・ヒットラー 我が闘争 (4) 【縮譯】 マイン・カンフ

Taller Mecanico de G. GONZALEZ. ブランチャ機 カルデラの修繕 其他. San José 220 U.T. 58-5925.

Tintoreria "ORION" de S. Kandomo. 染色店 オリオン. Priarte 2036 U.T. 21-1451.

ANTONIO ROCA Y CIA. OLLEROS 4164 casi esq. Corrientes U.T. 54-2390. 大勉強販賣.

Francisco Solé Dorrego 1039 U.T. 54-3630. 日本人方に告ぐ.

SASTRERIA "TORRO" SARMIENTO 654 U.T. 34, Defensa 3951. トロ高等洋服店.

JUGUETERIA TORRO SARMIENTO 540 U.T. 34, DEFENSA 1687. トロ玩具店.

KEROFIX Del Sr. ALEMAN (MARTIN) Talleres: CHARCAS 4611. ブラランチャ機.

MAQUINAS HOFFMAN BELGRANO 525 U.T. 34-1497. ホフマン式ブラランチャ機.

FRANCISCO SANTERO Ex mecánico de la Cia. Hoffman CONSTITUCION 3229 U.T. 45-0294. フランシスコサンテロ.

PLATA BRAUN Marca Registrada Bernardo Braun e Hilo CORRIENTES 4349 - U.T. 54-4111. プラブラウン.

GRAN TALLER "EL ASAHI" DE MIYAZONO HNOS. CASA MATRIZ CHARCAS 1873 - U.T. 44, JUNCAL 4366. クエジヨ.

新荷着!!! 日本食料品 味噌、醤油、味噌、小豆、紅生、白玉粉、海苔、干菜、高野豆腐、奈良漬、数の子、そば、福神漬、大、小、▲地方よりの注文に應ず▲▲お値段大勉強、配達迅速▲▲電話 二二二九一〇一 西坂商店

助産婦 (入院隨意) 産室の設備が充実から何時でも入院出来ます。市内ウンベルト・ブリーモ街一六六一 電話 二二二七二八四

かまぼこの 御注文は 村武へ 原料精選 御注文は前以て 電話にて御用命下さい

LUIS GORI HNOS. LIMA 1029 - U.T. 23-2897. 帽子木型製造所

Medicinal News 28 - Suipacha - 28 淋病梅毒 治療は全治後頂きます 肺結核新療法 婦人科 電気治療科 X光線科

日本建築 文化住宅 大工指物師 山本 立

親切丁寧、顧客本意、浴室完備 日本料理一切、其他日本菓子製造 まつや旅館

御注文は前以て 電話にて御用命下さい 電話 六七一四八三三

仕事の上手下手は 型の善悪に依る弊工場はマデラブランカ、マデラコロラ、アルガローボ等で製し諸流行型を最も安く提供す地方の注文にも應ず

日亞貿易促進工作へ 英國汚い横槍?

肉類輸入制限で亞國壓迫

英國政府が亞國の輸入を減少し、交換を行いつつあるが、斯る英せしめんとする種々の差を、英國の態度は果して何に起因するに亞國の最大顧客たることを、かかして去る二十八日、ララ宛も拒否せんとするが如き威嚇の紙が、大抵の如く述べてゐる。

あることは亞國の當局及び業者を驚かすに足り居り、パデイ、農相は過日米その對策樹立及び英亞通商協定改訂の準備のため、オオイ亞國農協長その他牧畜界の巨頭と意見の

私營から國營へ

二年後のロサリオ港 諸對策樹立を望む

現在ロサリオ港は私營株式會社が經營してゐるが、政府が許可したその經營期間が一九四二年十月満期となり、以後は國家が港の埠頭、土地、家屋、機械類、其他財産を無償で引續いて經營することになつてゐる。

ロサリオ港は一九〇二年から向ふ四十年間の時の土木省の設計及び豫算に基づいて港灣施設をなすといふ條件の下に、私營會社に經營の權利が與へられたもので、港灣收入の四〇%は經營費用とするに認められ、残り六十%から投資利息六%其他負債に對する利息とを放つてゐる。

節米運動

食膳にも戰時体制

【東京發】白米よきなら、この時代が来た、この節米運動と歩調を合せて、今度は三度々々のお惣菜にも規格をきめて、生活の戰時體制化と併行、たつた一つ残された食生活も、よい武裝化する一精進の「銃後食糧充實運動」の一環として、食糧部が戰時體制化計画を一手にひきうけてゐる。

食糧部は戰時體制化計画を一手にひきうけてゐる。食糧部は戰時體制化計画を一手にひきうけてゐる。食糧部は戰時體制化計画を一手にひきうけてゐる。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

御案内

元日本野球團創立の當初より同團のため種々努力された松田五郎氏は、来る三月七日、日航の便で、九日祖國に歸朝されることに相成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

廣告

今般本會は伯國に於ける講演旅行を終えられ、來亞せられたる大日本聯合青年團主事秋山照輝氏に、特別に御挨拶して、本會主催の「左記日程に依り講演會及び座談會を催うすこと」に成りました。

CASTINEIRA
AVENIDA MONTES DE OCA 1769
U. T. 21 - 2238 Buenos Aires

布地は豊富、仕立は最新型
お値段は極めて格安

カステイラ
ニエイヤ
高等洋服店

日本人常顧客澤山あります
月賦支拂の便もあり

水産屋
製造日 火木土曜日
配達日 水金日曜日

地方や田舎への御土産に至極調法

アベジャネダ市
ビルコマヨリ街
二二二一
電話(二〇九)二二二

“EL CERESO”
CONFITERIA JAPONESA
DEFENSA 429 U. T. 33-9119

西洋菓子類
ボンボン菓子
結婚用菓子
サンドウイチの御下命に應じます

▲電話にて御一報
次第早速御上致
します

森次郎

Banco Municipal

五萬磅迄の定期預金に對しては
年利三分乃至三分七厘五毛

を拂ひます、又五萬磅以上の場合は御話し合ひの上取決めを請ひます

●注意
年利は六ヶ月毎に計算支拂ひ致します

CASA CENTRAL: SUIPACHA 665

SUCURSALES

No. 1 Rivadavia 2499	No. 4 Boedo 870
No. 2 B. de Irigoyen 1459	No. 5 Corrientes 5379
No. 3 Rivadavia 7232	No. 6 Corrientes 3099

+++ まつみ屋 +++

御旅館並に御下宿

交通の便よき中心に在り
清潔、親切をモットーとす
常に清潔な設備有り
●宴会、ビュッフェ、其他の仕出し及辨當の御用命に應ず

日高喜作

レコンキスタ街五八五番
(第一階) デパートA
電話三二一六九〇六

無痛抜歯 ニベツ セメント充填 五ベツ
金冠 拾五ベツ 金入歯 拾五ベツ 総入
歯 六拾五ベツ

診察時間は午前九時より午後八時まで

DR. E. BULEVICH
U. T. 23 (B. O.) 0279
BERNARDO DE IRIGOYEN 1404

CAJA NACIONAL DE AHORRO POSTAL

一、比類なき特点

國內の如何なる貯蓄機關と雖も金者に對して左の特點を提供する事が出来ません

一、五千磅迄の預金に對する差押への不能
預金で購入された一萬磅迄の都市農村土地家屋に對する差押への不能

二、國內各地に散在する支局を仲介として如何なる地點からでも同一の預金帳に依り取引し得る便利

三、通信郵便の免除及び電信送金の手数料無料

二、特点

國內の僅かなる貯蓄機關のみが金者に提供し得る特點

一、取引に對する國家の保證
利用債券及び擔保證券に對する預金の安全なる投資

二、預金は年益積立によつて保證される
既婚婦人及び未成年者に對する便法(既婚人は夫の許可なくも預金の出し入れが出来ます)未成年者は自分勝手年額五十磅迄引出す事が出来、又保證人の許可ある時は如何なる金額をも引出す事が出来ます

三、支拂證(セツラ、バラ、レンボルト)に依る甘勝迄の小額一覽拂、支拂證は預金者の求めに應じて交付致します

四、預金最低限度は一磅、印紙及び貯金箱を利用してセントポスを貯蓄し得る便法

五、不定期利息付預金の引受

六、預金者死亡の場合の手續の簡便さ、その預金が五千磅を超過せざる時は何等相續判決及び法律手續を踏まなくとも遺産繼承關係の分明せる有權者に預金を直接引渡します。同じく兄弟の遺産となつた預金も預金が五百磅を超過せざる時は直接引渡します

七、預金者が病氣の場合五萬磅以上の金額ならば預金者の自宅へ搬送

八、中央郵便局其他特定郵便局に於ける受付時間は特に長時間なる事

亞國貯金局

賞盃の御用命は左記へ
A. MAZZETTI
カンガージョ街二四一七
電話 三三〇七九一

ナフタ並にケロセンの販賣
新開店 同胞諸君の御用命を乞ふ
吉田彌三郎
市内ルハゴ街三八(バルカセ街角)
電話 三三一一六五四

會葬御禮

妻正江の葬儀去月八日午後四時自宅出棺
チャリヤリ時々に於て相續み候節は御多忙中
且花環香料御贈儀中
預り誠に有難く御禮申上候、一々御上御禮申上候、此紙に御禮申上候、
昭和五年五月九日
昭和三十五年五月九日

大城正雄
長男 同 義雄
三男 同 義雄
親戚 平良賢夫
大城眞吉
大城清林
大城仁男
比嘉半賀
喜屋武哲雄
山崎浦雄
濱村龍郎
吉田仁吉
徳門光五郎
東江康清

友人 山崎浦雄
友人 徳門光五郎
友人 東江康清

總代 徳門光五郎
友人 東江康清

御案内

十九日は武市への到着が今か今かと待たれたが、河水の状態が非常に悪く、渡ることが出来ず、四日間の水浪との闘争を経て、到着地の十五キロメートルを目的に到着した。このやむを得ない状況に、カンデオツチは八時一時間と五十三分を泳ぎ、強い東南風が吹く中、泳ぎが非常に困難であった。村井書記は廿九日モンテビデオで中止したものである。

御案内

今日本會創立者各本邦諸氏並に本會役員見送見氏は三月七日出帆のべらるる九日に母國訪問の爲め歸朝されることに相成りました。就いては本會主催に成りました。三月三日午前十五分よりサンニコラス・パリー教會(サンタフェ二六四)に於て同氏の無事旅行を祈る送別ミサを執行致します。御出席は勿論一般の御方々も御参加下さるやうに御案内申上ります。

二月廿九日
日本人公教會

御案内

今日本會創立者各本邦諸氏並に本會役員見送見氏は三月七日出帆のべらるる九日に母國訪問の爲め歸朝されることに相成りました。就いては本會主催に成りました。三月三日午前十五分よりサンニコラス・パリー教會(サンタフェ二六四)に於て同氏の無事旅行を祈る送別ミサを執行致します。御出席は勿論一般の御方々も御参加下さるやうに御案内申上ります。

二月廿九日
日本人公教會

御案内

今日本會創立者各本邦諸氏並に本會役員見送見氏は三月七日出帆のべらるる九日に母國訪問の爲め歸朝されることに相成りました。就いては本會主催に成りました。三月三日午前十五分よりサンニコラス・パリー教會(サンタフェ二六四)に於て同氏の無事旅行を祈る送別ミサを執行致します。御出席は勿論一般の御方々も御参加下さるやうに御案内申上ります。

二月廿九日
日本人公教會

御案内

今日本會創立者各本邦諸氏並に本會役員見送見氏は三月七日出帆のべらるる九日に母國訪問の爲め歸朝されることに相成りました。就いては本會主催に成りました。三月三日午前十五分よりサンニコラス・パリー教會(サンタフェ二六四)に於て同氏の無事旅行を祈る送別ミサを執行致します。御出席は勿論一般の御方々も御参加下さるやうに御案内申上ります。

二月廿九日
日本人公教會

Año XVII N° 1105

"EL ARGENTIN DJIJO"

PERIODICO JAPONES FUNDADO EN 1924

CORREO ARGENTINO
FRANQUEO PAGADO
TARIFA REDUCIDA
CONCESION 718

Buenos Aires, Sábado 2 de Marzo de 1940

SECCION CASTELLANA

Dirección: Uspallata 981. U. T. 23 - 7061

RELACIONES NIPON - ARGENTINAS

La visita al Japón de la Misión Cordial de la Argentina, la primera de la especie que se lleva a cabo desde este lejano país, que es objeto de las merecidas hospitalidades de parte del Gobierno y pueblo del Imperio Nipón, ha querido dejar un recuerdo grato en la Capital Japonesa, antes de comenzar su viaje por el interior del país en su gira de Turismo, respondiendo a la organización de un intercambio de mensajes entre las autoridades de ambos países. El acto fué realizado el lunes 26 de Febrero entre las 18.45 y 19.15 horas de Buenos Aires, siendo difundida aquí al público por intermedio de L. R. A. Radio del Estado.

Intervinieron en las conversaciones: el Ministro de Relaciones Exteriores del Japón, Dr. Hachiro Arita; Ministro Argentino en Tokio, Dr. Rodolfo Moreno y el Jefe de la Misión Argentina, señor Federico Quintana; Ministro de Agricultura y Comercio de la Argentina, Dr. J. Pillado; Presidente de la Comisión de asuntos extranjeros del Senado, Dr. M. Sánchez Sorondo y el ministro del Japón, señor Iwataro Uchiyama. También fué radiada, de ambas partes, músicas típicas ejecutadas por conocidos artistas.

Los diarios de Tokio, reiterando los saludos cordiales a los emisarios de amistad argentina, hicieron eco simpático de las audiciones del lunes último, formulando votos por la grandeza de la República Argentina y un mayor estrechamiento entre ambas naciones.

A continuación insertamos los discursos pronunciados en Tokio, comenzando con el del ministro de relaciones exteriores del Japón. Los mensajes enviados de Buenos Aires serán publicados en nuestra edición próxima.

MENSAJE DE S. E. EL SEÑOR HACHIRO ARITA, MINISTRO DE RELACIONES EXTERIORES DEL JAPON

Estimado Pueblo Argentino:

Tanto el Gobierno como el Pueblo del Japón están sumamente agradecidos al Gobierno de la Nación Argentina que ha tenido a bien enviarnos la Misión Económica como un testimonio de que desean estrechar las relaciones comerciales y de buena amistad entre nuestros dos países.

Nuestro pueblo guarda todavía en su mente los sentimientos de sincera y profunda gratitud por vuestra simpatía manifestada al concedernos, hace unos treinta años, dos importantes buques de guerra "Moreno" y "Rivadavia" cuando las relaciones Ruso-Japonesas estaban amenazadas. Desde entonces, en el curso de treinta años los vínculos de nuestra amistad continuaron intensificándose.

El Japón se encuentra en el presente atravesando acontecimientos de tal impor-

tancia como nunca vió en su historia; sin embargo, conserva su capacidad productiva en estado normal y continúa realizando sus actividades comerciales, a pesar de la paralización comercial que se ha generalizado en el mundo.

Estoy seguro de que las actividades y esfuerzos de la Misión Económica Argentina que en el presente está tomando contacto con diversos círculos de nuestro país y que viene adquiriendo conocimientos del nuevo orden de cosas en Asia Oriental contribuirá grandemente al mayor desarrollo económico y a un mejor acercamiento de las relaciones de amistad entre las dos naciones.

Al terminar mis palabras formulo mis mejores votos por el éxito de la Misión Económica y por la creciente prosperidad de la Nación Argentina y de su pueblo.

De Su Excelencia el Señor Doctor Rodolfo Moreno, Ministro Argentino en el Japón

Conciudadanos: El Japón por su tradicional cortesía siguen ofreciendo a la Misión Económica Argentina su magnífica hospitalidad exhibiendo al prodigarlas una faceta de su espíritu occidental, con su particular grandeza.

Sepan mis compatriotas que la visita recibida ha puesto una vez más en evidencia el aprecio que aquí se siente por nuestro país. La confianza con que su Presidente el Doctor Roberto M. Ortiz concertara los acuerdos más justos en el orden comercial y el deseo que todos compartimos para que los vínculos entre el Japón y la República Argentina en todos los aspectos de la vida se aumenten, estrechen e intensifiquen.

Dos naciones opuestas en la situación geográfica pero próximas en sus sentimientos no se encuentran separadas por los mares sino unidas por los mismos mares a la potente expansión de la marina mercante japonesa con sus servicios constantes mejorados.

En el Imperio del Sol Naciente y por amabilidad de su Gobierno saludo a mi Patria a sus autoridades, a la representación del Japón en Buenos Aires encabezada por el Ministro Iwataro Uchiyama, a mis conciudadanos a quienes sirvo con lealtad sirviendo a la República.

DEL JEFE DE LA MISION ECONOMICA ARGENTINA Sr. F. QUINTANA

Una invitación cordial que se suma a las numerosas demostraciones de la hospitalidad japonesa que hasta hoy hemos recibido me permite llegar a este micrófono como Jefe de la Misión Económica Argentina. Aprovecho tan excepcional circunstancia para hacer conocer a mi patria directamente el espíritu de real amistad que he halado en cada uno de los actos con-

que al agasajar a la Misión Argentina tanto el pueblo del Japón como el Gobierno del Japón ha evidenciado sus deseos de ser gratos a nuestro país. Día a día hemos recogido una nueva prueba de esos sentimientos, una nueva demostración de su afán de conocer mejor y para que mejor los conozcamos para que de ese entendimiento surjan nuevos nexos de comprensión.

Por su Excelencia el Señor Ministro de Relaciones Exteriores, Señor Arita y el Vice-Ministro, Señor Sumiyuki Tani, que presidió cortésmente la comitiva de recepción debemos procurar la exposición clara de la política japonesa actual que nos ha permitido seguir con conocimiento preciso el desarrollo de uno de los momentos más importantes de la historia del Oriente contemporáneo.

Luego la organizada visita a los departamentos oficiales, a los grandes centros manufactureros y artísticos nos han puesto en contacto con todo lo grande y maravilloso que el Japón nuevo y el Japón antiguo contienen. Hemos conocido este pueblo dentro de su atmósfera y de ese contacto hemos recibido la seguridad de un gran afecto por nuestro país.

Las tres conferencias económicas que tuvieron lugar en Tokio se desarrollaron en un tono de mutua comprensión. En la próxima reunión que tendrá lugar el jueves esperamos llegar a conclusiones favorables. Por nuestra parte nos hemos esforzado en hacer llegar hasta ellos el buen deseo que en tal sentido inspira el gobierno del Doctor Ortiz.

Una y otra vez, hemos repetido ante las asambleas oficiales las palabras con que nos despidió el día de nuestra partida el Primer Mandatario Argentino al formular votos para que esta Misión sirva como vínculo eficaz de solidaridad entre las dos Naciones.

A nuestro retorno a la patria lejana a la cual dirijo estas palabras con verdadera emoción, no cesaré de trabajar en el sentido de un mayor acercamiento. Para ello llevaremos como documento valioso una visión completa de este Imperio incomparable en el cual todos los actos grandes y pequeños tienen un contenido de noble sobriedad.

ECO DEL INTERCAMBIO DE MENSAJES CORDIALES ENTRE JAPON Y LA ARGENTINA

Tokio 27. — Los diarios de la Capital informan detalladamente sobre los mensajes cordiales cambiados entre las autoridades de ambos países, Ministros Diplomáticos y la Misión Argentina actualmente en Tokio, formulando votos sinceros por la amistad Argentino-Japonesa del Gobierno y Pueblo del Japón.

PAGINA DE ACTUALIDADES

EL EMPERADOR DEL JAPON EN LA ESCUELA MILITAR

Tokio, Febrero. — Su majestad el Emperador del Japón concurrió hoy acompañado del Lord Chamberlain, Marqués Matsudaira a la ceremonia del fin del curso de la Escuela Militar.

Por la mañana pasó revista a los alumnos formados en el campo de ejercicios de Sagamiga-Hara acto al cual asistieron príncipes Imperiales, Ministro de Guerra y autoridades del ejército y de la institución mencionada. Por la Tarde, en el Salón de Actos del Colegio se realizó la distribución de premios y diplomas a los egresados en un ambiente solemne, especialmente significativo dada la circunstancia actual de emergencia que demanda la serena labor de los oficiales del ejército.

TRIUNFO DE LOS NACIONALISTAS CHINOS EN SHANSI

Hongkong 28. — Informaciones fededignas hacen haber que las fuerzas nacionalistas chinas que combaten a los ejércitos comunistas de Shansi han logrado imponerse en la parte sur de esa provincia, derrotando la concentración enemiga de más de 150 mil soldados en la región.

AUMENTAN LOS ESTUDIANTES DE LAS ESCUELAS ESPECIALES

Tokio 28. — Con las actividades extraordinarias del mundo industrial y comercial de la época presente aumentan los aspirantes al ingreso de las escuelas especiales cada vez más. En el periodo de este año se presentaron 17.576 aspirantes para las Escuelas Técnicas Superiores del Gobierno; Escuelas superiores de Comercio, 13.313.

INDUSTRIA DEL HIERRO EN MANCHURIA

Tokio. — Se ha constituido una empresa para la explotación de carbón e Hierro en la Manchuria, combinando las actividades de la compañía carbonera y del Hierro, con un capital de 100 millones de yen para promover la industria del hierro con las producciones de las minas de esta región.

DIFICULTADES DEL GOBIERNO DE CHUNG-KING

Hong-Kong. — Según informaciones telegráficas de Chung-King, en el Gobierno de Chiang-Kai-Shek se ha producido una división por la situación financiera difícil y las continuas derrotas militares y la

necesidad de cambiar la ruta diplomática. Hay en el seno del gobierno partidario americanos, partidarios soviéticos y partidarios de mantener buenas relaciones con ambos países mencionados. La reciente resolución norteamericana de facilitar a la China una ampliación de 20 millones de Dólares de empréstito ha fortalecido la influencia de los amigos de los Estados Unidos.

No obstante, el Gobierno debe considerar su situación con Moscú por una parte y la situación interna para no producir un debilitamiento que pueda ser fatal para su existencia. Es, pues evidente la dificultad que afronta Chiang-Kai-Shek.

MISION ECONOMICA JAPONESA EN LAS FABRICAS

Tokio. — La Misión económica argentina que con entusiasmo estudia la manera de promover el desarrollo del intercambio argentinojaponés continúa visitando fábricas e instituciones que le interesa, siendo atendida con especial cordialidad.

RETIRO DE AYUDA MILITAR DE LOS SOVIETS

Hongkong, febrero 28. — Telegrafían de Chungking que los consejeros militares y aviadores rusos que prestaban servicios en el ejército de Chiang Kai-Shek que habían llegado a más de 800 antes de iniciarse la guerra de Finlandia, se han retirado ya más de tres cuartas parte del total, sin esperanza de que vuelvan de nuevo por ahora.

PERIODISTA ENJUICIADO EN EL ORIENTE

Tokio 27. — El agente general de la Agencia Noticiosa Internacional News Service, James Young, ha sido sometido al enjuiciamiento de los tribunales, de acuerdo con el código militar, por sus informaciones calumniosas.

FORMACION DE UN NUEVO SINDICATO BANCARIO PRO-RESURGIMIENTO CHINO

Tokio. — Ha sido concertada la formación de un nuevo sindicato bancario con el

objeto de prestar su cooperación para la obra del resurgimiento chino, que iniciará sus actividades para el mes de Abril próximo con un capital inicial de 20 millones de Yens.

ENTREVISTA TANI-CRAIGIE

Tokio, Febrero. — El embajador británico, Sir Robert Craigie entrevistó al Vice-Ministro de Relaciones Exteriores, Señor Tani, esta mañana. Se supone que las conversaciones entre ambos han girado sobre la forma de la entrega de los prisioneros expasajeros del Asasa Maru, creyéndose que éstos serían devueltos en los primeros días del mes de marzo próximo.

REGRESO DE SU ALTEZA IMPERIAL EL PRINCIPE CHICHIBU DE UNA GIRA POR LOS FRENTES EN CHINA

Tokio, febrero. — Su Alteza Imperial el Príncipe Chichibu regresó a la capital procedente de Shanghai, por avión, después de visitar Cantón, Hainan, las tropas del frente de Nanning, Nanking y Shanghai. Su alteza vuelve muy bien impresionado de las excelentes condiciones de los soldados en los frentes chinos.

CONFRATERIDAD FEMENINA CHINO-JAPONESA

Tokio. — Para retribuir la visita de la Comisión de Damas intelectuales de Cantón que vinieron a Tokio el año pasado, en representación de la Sociedad Educativa Femenina del Asia Oriental y con mensajes cordiales de diversas sociedades femeninas del Japón, saldrá en breve con destino a Cantón una misión de amistad presidida por la Señora Suzue Yamada e integrada por siete miembros destacados del mundo femenino.

LINEA AEREA DE NAVEGACION A LOS MARES DEL SUR

Tokio. — La línea de servicio aéreo proyectada para la Oceaía, será inaugurada para fines de marzo próximo, iniciando con la ruta Yokohama-Saipan-Palao.

LINEA AEREA TOKIO-BANKOK

Tokio. — Esta mañana a las 6.30 horas salió del aeródromo Haneda de esta Capital el primer avión de la línea regular Tokio-Bangkok, el "Tatekaze", con dirección a Siam. La distancia entre ambos capitales es de seis mil kilómetros.

H. KATO

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

Herrera 2097 y 2111 U. T. 21-1841

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

Kokusai Bunka Shinkokai

(Sociedad de Fomento de Cultura Internacional) TOKIO, (Japón)

Agentes en Buenos Aires: G. YOSHIO SHINYA

RECONQUISTA 336

SALDO DE BALANCE DE LAS PERDIDAS CHINAS DE ENERO

Tokio, febrero. — El Cuartel General del Ejército Imperial ha dado a la publicidad el balance de las actividades del mes de enero en el Norte, Centro y Sur de China, como sigue: Número de combatientes enemigos que tomaron parte en las acciones; en el Norte 297.000 en el centro 317.500 y en el Sur 288.800, que hacen un total de 903.300.

Fueron enterrados en conjunto, 77.500 cadáveres abandonados, tomando 4.678 prisioneros. Entre el botín de guerra tomado se citan: 25 cañones de montaña, 14 ametralladoras, 51 cañones de sitio, 117 cañones pesados, 646 ametralladoras portátiles 14.161 fusiles, 41.992 granadas de mano, 11 camiones blindados, cuantiosas municiones, etc.

VISITA AL JAPON DEL EMPERADOR DEL MANCHUKUO

Tokio, Febrero. — Con motivo del 2600 Aniversario del Imperio Nipón, el Emperador del Manchukuo ha anunciado su intención de realizar una visita de cortesía al Emperador del Japón para presentar a Su Majestad las congratulaciones personales. El viaje se realizará en la primera semana de mayo próximo.

PROYECTO DEL CONTROL DE TEJIDOS DE LANA

Tokio. — El Ministerio de Comercio e Industria ha presentado a la Dieta un proyecto de ley por que establece una organización para controlar la calidad de los tejidos de lana para exportación. El propósito de la ley es el de mejorar la calidad y evitar la exportación de artículos mal concluidos que en definitiva perjudican a la industria nacional.

PRESUPUESTO JAPONES

Tokio. — La Cámara de Representantes aprobó en su Sesión del día de hoy la Ley del Presupuesto para el año fiscal de 1940-41, según el proyecto original presentado por el Gobierno, que asciende a 10.300 millones de Yens.

CONQUISTA DE FANCHANG

Anking. — Las fuerzas japonesas que desde el día 19 del corriente habían iniciado la acción envolvente de la bien fortificada posición china de Fanchang, protegida por las sierras y pantanos y defendida por las divisiones 144 y 7 del ejército chino, fué atacada en la mañana de ayer por las unidades de Ishitani con el apoyo de la aviación, que después de destruir las defensas conquistaron la posición derrotando completamente a los enemigos, parte de los cuales huyen desordenadamente siendo perseguido por nuestras fuerzas.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO JAPONES

Biblioteca Pública — Cursos de Japonés
INFORMACIONES CULTURALES

Calle Uruguay 718

PAIS DONDE NACE EL SOL

Por RYUICHI KAJI

Cuéntase que el Japón era conocido en China desde los fines del IIIer. siglo antes de Cristo, cuando, según la leyenda, el célebre Emperador de la dinastía de los Chin, Shih Hungti, mandó su emisario en busca del exilir de la inmortalidad en el mar oriental. Es difícil de comprobarlo. Por lo menos es cierto, sin embargo, que desde el 1er. siglo de la era cristiana, algunas familias poderosas de Kyúshú tuvieron contacto con China. Los chinos de entonces conocían al Japón como un país productor de perlas y joyas hermosas, habitado por un pueblo inteligente y hábil. Más tarde, hacia el siglo XIII, el famoso navegante veneciano Marco Polo, atrajo la atención de los europeos sobre el Japón en sus notas de viajes en China. "El Sol nace en el mar del oriente", se dijeron, "he ahí la fuente de la luz y de la esperanza". Diríase que, desde la más remota antigüedad, los pueblos orientales y con ellos los occidentales habían buscado la luz en el archipiélago japonés, situado en el extremo oriente rodeado de las aguas del Océano Pacifico! Luego, en el siglo XVI, cuando las naves europeas se pusieron en viaje a través del Océano Indico hasta el Pacifico, no pocos de estos navegantes europeos creyeron que el Japón no era otro que esa isla famosa en la leyenda, conocida por su riqueza en oro y en plata. Todavía, hoy en día, debe de haber en el mundo mucha gente que sueña del Japón con cierta aspiración vaga como la que acariciaron aquellos navegantes antiguos. En efecto, ¿cuántos de ellos tienen una idea exacta de nuestro país?

Dícese que Herr Wilhelm Solf, ex em-

bajador alemán en el Japón, que es un gran amigo de mi país, cuando llegó allí por vez primera dijo: "que tenía la impresión de haber arribado a las Indias". El mariscal Joffre, en ocasión de su visita, en nombre de Francia, para agradecer por la colaboración del pueblo japonés prestada durante la Gran Guerra, al salir de la estación central de Tokio y al ver los grandes edificios de cemento armado levantados allí, dijo: "¿Es éste el Tokio que yo he soñado?... ¿No es ésta una ciudad americana?"

Los forasteros encontrarán naturalmente en el Japón, muchos elementos de origen chino, algunos del Norte y Oeste del Asia, así como de la Polinesia. Se asombrarán algunos turistas al ver en un barrio de las calles angostas ventanas salientes enrejadas y ribeteadas de hierro, como las que se hallan en las ciudades de Arabia. No es difícil para un viajero observador de discernir en las costumbres japonesas ciertas semejanzas con las de la Europa meridional y de ciertos tonos nórdicos.

Cada una de esas observaciones es exacta en algunos aspectos. Mas, francamente hablando, esos viajeros son un tanto parecidos al ciego que pasa la mano sobre un elefante. Ellos no llegan a tener la vista en conjunto del Japón. Y ¿por qué? Porque, a mi ver, una observación exacta del Japón resulta difícil por su posición geográfica, que se extiende desde el Ecuador hasta los 50 grados de latitud norte, y por la diversidad de la sociedad japonesa formada en su larga historia de tres veces milenaria.

Abastecimiento de agua potable a la ciudad de Tokio

Auspiciado por el Centro Argentino de Ingenieros, dió una charla sobre el "Abastecimiento de agua potable a la ciudad de Tokio", el ingeniero peruano, señor Jorge Madueño Montoya, quien se halla de paso en esta capital en su viaje de regreso desde Japón, donde estudiara la ingeniería sanitaria, de su especialidad, como becado del Instituto Internacional de Estudiantes anexa a la Sociedad de Fomento de Cultura Internacional de Tokio.

El joven ingeniero peruano ha demostrado su capacidad técnica y la labor eficiente realizada en su permanencia de un año en el Japón, dando una conferencia que fué una cátedra, interesante y amena a la vez, que mantuvo interesado al auditorio todo el tiempo que habló.

El orador explicó las condiciones geográficas y topográficas de la capital japonesa, su enorme extensión poblada por más de seis millones de habitantes. La condición peculiar de su suelo que a menudo es azotado por terremotos, la necesidad de proveerse en casos de emergencia, etc, elogiando al mismo tiempo las provisiones de los ingenieros japoneses.

Las descripciones de la obra del abastecimiento de agua potable de Tokio, así como su generalización en todo el Imperio, en un estudio ordenado y completo, llamó la atención de los profesionales selectos que llenaban el salón.

El ingeniero Madueño, no se olvidó de hacer una reseña histórica de las provisiones de aguas en centros urbanos y citó

la primitiva obra de Yedo, antigua capital del shogunato de Tokugawa, en donde hace más de trescientos años fuera construido el canal que es aún utilizado para conducir al reservorio las aguas del río cercano, diciendo que en aquella época ninguna ciudad, ni Londres ni París, tenía obras semejantes.

Se refirió a un sistema japonés de filtración rápida de las aguas que, como novedad, fué escuchada con atención.

También habló de la nueva y colosal obra de la Gran Ciudad de Tokio que ha comenzado a trabajar para prepararse el abastecimiento satisfactorio de la metrópoli cuando tenga 10.000.000 de habitantes.

La presencia del agente de la Kokusai Bunka Shinkokai o Sociedad de Fomento de Cultura Internacional fué festejada por las autoridades del Centro Argentino de Ingenieros que al auspiciar la disertación del señor Madueño expresaba su simpatía y admiración hacia el Japón.

El orador fué muy felicitado.

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5462

INFORMACIONES ARGENTINAS

PERIODISMO.— El censo de 1935 dió 1.660 publicaciones en todo el país, con un tiraje de 941 millones de ejemplares al año. De ellos 639 con 736 millones se editaban en la Capital.

De las 1.660 publicaciones, 270 eran diarios, con 791 millones de tiraje; 459 semanales, con 108 millones y 470 mensuales con 19 millones.

820 publicaciones eran de interés general; 168 de carácter político, 83 de carácter religioso.

La Argentina es uno de los países que consume más papel por habitante, sobresaliendo en cuanto a su magnitud los diarios, algunos de los cuales alcanzan tirajes de más de 500.000 en algunos números extraordinarios y más de 200 mil en sus ediciones diarias.

ENSEÑANZA PRIMARIA.—

La Argentina está a la cabeza de los países sudamericanos en adelanto de la

instrucción pública, aunque está lejos del perfeccionamiento de los países más adelantados, dice el señor Emilio Llorens en su libro "Argentina Económica".

Por ley es gratuita la enseñanza primaria y es obligatoria. En 1937 existían en el país 13.032 escuelas con 69.022 maestros y 1.867.292 alumnos, que equivale a un 14,6 % de la población total.

ANALFABETISMO.—

En 1869 existían en la Argentina 782 analfabetos en cada 1.000 habitantes mayores de 7 años; en 1924; 351 por 1.000.

En el censo de la Capital Federal, de 1936, ha revelado un progreso maravilloso: sólo habían 66 habitantes por cada mil mayores de 7 años que viven en la ciudad de Buenos Aires que eran analfabetos. Y, si se considera separadamente los extranjeros de los nativos, se comprueba que entre los nativos solamente 24 de cada mil son analfabetos, mientras que entre los extranjeros 137 por mil no saben leer

ni escribir.

El porcentaje de los ciudadanos que declaran no saber leer ni escribir e nel acto del enrolamiento, es el siguiente:

De acuerdo con datos del Ministerio de Guerra: (registrados entre 1928 y 1937); la provincia que dió mayor número de analfabetos es Corrientes, con 351 sobre cada mil; Entre Ríos, 322; Santiago del Estero, 309; San Luis, 297; San Juan, 293; Tucumán, 283; Salta 261; Mendoza, Jujuy, Catamarca y La Rioja, con índices superiores a 200; Córdoba 182; Santa Fe, 123; y la Provincia de Buenos Aires, 105, por mil. Entre los territorios, Río Negro dió 349 analfabetos por mil; Neuquén, 302; Chaco, 262; Chubut, Santa Cruz, Tierra del Fuego, en conjunto, 215; Formosa, Pampa y Misiones, con índice menores de 170 por mil.

En el conjunto de 1.146.355 ciudadanos que se enrolaron en los 10 años, 179.332 enrolados eran analfabetos, esto es: 156 por mil ciudadanos.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 BARRIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 — U. T. 33-2981-2982</p>	<p>F. KANEMATSU y Cia. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 46, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Unión Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cia. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS RIVADAVIA 1210 (4o. piso) U. T. 38 - 3239</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8801 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Capilería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cia. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p>S. KAISEKI Representante de DAIDO BOEKI KAISHA LTD. Kobe, Japón Importación y Exportación MORENO 1388 - BUENOS AIRES U. T. 38 - Mayo 7286</p>
<p>KATSUDA y Cia. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>N. HARA y Cia. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 3437</p>	<p>S. ANDO y Cia. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>NAOJI SAITO BUENOS AIRES BOEKI ASSENJO ROQUE S. PEÑA 616 - 7o PISO U. T. 33 - 6374</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Cava Establecida en el año 1905 VICTORIA 2702 — U. T. 45 - 8180</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-0978 CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 616. 7o. Piso. — U. T. 33, 1482. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893. COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2o PISO U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 999C</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251</p>	<p>TAKAO ARAI Representante de B. ESPECIE DE YOKOHAMA Ltda. Avda. ALVEAR 3900 — 7o. piso U. T. 72 - 1469</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p>CASA ITOH (S. OHTA) Representante de C. Itoh y Cia. Ltda. SAN MARTIN 66 - Esc. 504-505 U. T. 34, Defensa 5158</p>	<p>K. KAWAI Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 U. T. 23-8256</p>	